

# 博士課程教育リーディングプログラム 平成28年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
機関名	九州大学	全体責任者（学長）	久保 千春
類型	複合領域型（環境）	プログラム責任者	原田 明
整理番号	H02	プログラムコーディネーター	谷本 潤
プログラム名称	グリーンアジア国際戦略プログラム		

## <プログラム進捗状況概要>

### 1. プログラムの目的・大学の改革構想

本事業の目的は、グリーン化と経済成長を両立したアジア（グリーンアジア）の実現に資する理工系リーダーの養成にある。資源消費の飛躍的削減と経済成長との両立は、人類社会の課題である。そして、アジアは、文化・社会的な多様性を内包し、経済成長と環境問題との相互矛盾を抱えつつも、活力あるメルティングポット状態となって発展しつつある典型的なモデル地区としての意味を有する。経済成長と資源利用効率向上の両立という人類が経験したことのない困難な課題を解決するため、産官学連携・国際協働の下、3つの学術分野〔物質材料科学・システム工学・資源工学〕のいずれかを専門とし、自身の専門プラス他の2専門分野、および3分野の総体としての環境学、加えて理工学を支えるためのアジア・オセアニア諸国の社会学・経済学の基礎を複合的に修得、さらに、国内外の実践経験を積み、理工系リーダーとなるに相応しい5つの力〔研究力・実践力・俯瞰力・国際力・牽引力〕を獲得、かつアジア人材ネットワークを有する人材の育成を行う。

九州大学は、教育憲章や学術憲章に示されるように、教育においては、世界の人々から支持される高等教育を推進し、広く世界において指導的な役割を果たし活躍する人材を輩出し、世界の発展に貢献することを目指している。研究においては、人類が長きにわたって遂行してきた真理探求とそこに結実した人間的叡知を尊び、これを将来に伝えてゆくとともに、諸々の学問における伝統を基盤として新しい展望を開き、世界に誇り得る先進的な知的成果を産み出してゆくことを自らの使命として定めている。このためには、自由闊達な発想と洞察をもって、常に高みを目指し、新しい地平を切り開いてゆく絶えざる挑戦が求められるが、平成7年に独自に「改革の大綱案」を策定し、学府・研究院制度を始めとする構造的な改革に取り組んできている。平成16年度の法人化以降は、明確な目標・計画を掲げ、総長のリーダーシップの下で、様々な大事業や大改革が進められている。改革の具体的内容は次の8点に集約される：1)博士・修士・学士課程教育の系統性：学士・修士一貫と博士一貫の併存、2)教育組織と研究組織の分離と管理運営システム：研究科・系教育と研究院の分離と連携、3)COE構築のための柔軟な協力システム、4)柔軟で開かれた系の教育システム、5)研究科と系の再編、6)附置研究所・附属研究施設等の改革、7)社会との連携の強化、8)国際的連携の強化。それぞれが本プログラムに深く関わっているが、特に本プログラムは学内の4つの専攻を中心に、6つの研究院、2つの附置研究所、1つの研究機構、新規開設を含む4つの教育・研究センターの協力の下、文理協働・社会連携・国際連携の推進を掲げ、5年一貫の新しいタイプの博士課程教育システムの構築を目指すものとなっている。

（機関名：九州大学

類型（領域）：複合領域型（環境）

プログラム名称：グリーンアジア国際戦略プログラム）

## 2. プログラムの進捗状況

採択後 5 年度目にあたる平成28年度の計画は、初年度に整備されたシステムに沿って順調に実施された。具体的には以下の通り。

### (1) 運営体制の整備：

①プログラム運営主体のグリーンアジア 国際リーダー教育センターにて、特定プロジェクト教員 11 名、テクニカルスタッフ 7 名、事務補佐員 5 名を雇用した。②各種委員会およびワーキンググループ (WG) を組織し、プログラムの機動的運営を図った。これら委員会等メンバーも含めた拡大運営委員会を月 1 回、学務委員会を月 2 回平均で開催した。なお、拡大運営委員会および学務関係の委員会は英語により実施した。

### (2) 教育プログラムの実施と整備：

①第5 期生の選抜試験を実施し、18 名（日本人学生3名、外国人留学生15 名）を受け入れた。第6期海外生選抜試験および第6期国内生の先行（入学前）選抜試験を実施し、7 名（国内4名、海外3名）を合格とした。また、留学生の応募を容易にするため、Web を利用した募集方式および受験システムを活用し、第 5・6 期の留学生募集・スクリーニングを進めた。②理工系、人文社会系の講義、実践英語、国際演習、実践産業科目等を手配、開講した。人文社会系科目に関しては、特定プロジェクト教員による講義を整備、本学基幹教育科目を活用、また非常勤講師を手配して集中講義形式でも実施した。③第 4・5 期生等対象のプラクティススクール、第 4 期生および第 5 期生等の研究室ローテーション、第 2・3 期生の海外長期および国内インターンシップを手配、実施した。④全学年を対象に国内短期実習（吉野ヶ里メガソーラー発電所、三菱造船所ほか）及び海外短期実習（台湾：国立中山大学・南部サイエンスパーク・サイノファーム台湾・TSMC）を実施した。⑤グリーンアジア国際セミナーを開催するとともに、「グリーンアジア学生フォーラム」を併設して学生討論を実施した。⑥コース生を対象とした小セミナー（アフタヌーンコロキウム）を計 14 回開催した。⑦第3回統合創・省・基盤技術エネルギー教育研究拠点シンポジウム等、共催イベントを実施した。⑧第3期の留学生および第4期の国内選抜学生に対する博士研究開始資格認定審査(QE)、第 3 期生に対する研究レビュー・提案審査、第 2 期生に対する博士研究中間報告審査、第 1 期生に対するグリーンアジア自由課題論文審査、最終QEを実施した。第1期生6名のうち、5名がコースを修了し、博士学位を取得した（残る1名も博士課程修了に必要な単位を取得済みであり、1年以内に博士論文を提出する予定である）。⑨コース生の成績の管理等の方法を整備した。

### (3) 連携体制の整備、連携企画の実施：

①12月に第 6 回国際アドバイザリーボード会議を開催し、国際連携先と今後の進め方等に関して協議を行った。②国際連携先、国内企業連携先と今後の進め方やバン格拉デシュ日本国際工科院の設立等に関して個別協議を行った。③九州大学を訪問したインドネシア・セベラスマレット大学の担当者と協議し、シンポジウムの共同開催等、今後の連携強化に向けて協力していくことで一致した。④留学生のリクルーティング、スクリーニングのため、既に実施していた1) 欧米の留学プログラム検索サイトへの有料広告掲載、2) Webでの出願プロセス、および3) Web受験システムを活用し、従来の国内大学院には見られない枠組みをさらに充実させた。波及効果として、上記1) 及び2) の手法は、本プログラムの主たる運営母体である総合理工学府博士後期課程の文科省留学生優先配置プログラム（Brain Circulation —アカデミック育成のためのグリーン理工学国際コース / Intellectual Exchanges and Innovation Program ; H26-30 採択）で適用されている。

### (4) 広報活動：

①パンフレット（簡易日本語版、日本語版、簡易英語版、英語版）を作成し、各所に配布した。②学内に向けた入試説明会を複数回実施した。③ホームページ（日本語版、英語版）およびFacebookで情報発信を行った。Web上に設置した履修登録システムや、学生が匿名で意見や質問を投稿できるメッセージボードを運用した。④ニュースレター及び環境関連総合誌 EVERGREENを企画編集し、発行した。⑤九州大学ガイドブック、九州大学ホームページ、リーディング大学院プログラム紹介冊子、リーディングフォーラム 2016、同志社大学・広島大学のリーディングプログラムとの合同研修等、機会をとらえて本プログラム内容を広報した。